

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月24日

事業所名 サン. プレイス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		活動のスペースを区分けすることや、近隣の公園等活用している。	
	2 職員の配置数は適切である	4	1		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	アクティブな活動をする児童をイメージした設計となっている。	室内はフラットな設計で段差がないようにしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			出来る形を模索し、改善していきながら行い、保護者様のご満足に繋がるようにしている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページで情報公開を行っている。	インスタも含めホームページとリンクして活動内容を公開しており、今後も保護者様が安心してご利用いただけるようインスタの活用の幅を広げていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		現在は行っていないが、外部から見た目は必要なので、様々な視点から見て頂けるような形を作る。また周知ができていなかったため、この件に限らず周知、情報の共有を行っていく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			資質を高める為、今後も研修機会を作っていく。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			必要な情報を見やすくできるよう改善してアセスメントを作成している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		日常の支援に繋がるように朝礼など共有した時間を取っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			個々に併せた活動のプログラムを工夫していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			当日決定する場面もあり、プランニングをしっかりと行っていき、児童の成長のサポートを行っていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		朝礼を活用して確認の場を作っている。	朝、朝礼を行って、予定と振り返りを行っている。また、内容によってはその日に振り返る場面もあるが、振り返る状況が当たり前になるようにして活かしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		振り返りが自然と行っ次に向けた話し合いがなされている。	終礼の時間を設定してはいないので、職員が話しやすい環境を作って振り返りの時間を大切にいく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			常に変化しており、改善があることが当然である意識を身に付けていく。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			児童にとって利益がある支援を求めていく。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			担当者会議の実施を相談と調整して児発管が出席しているが、現場職員の参加も定期的に行っていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		学校との連絡を行っていきながら連絡調整をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		現在受け入れはないが、受け入れた際には医師との連携を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			未就学児の情報としては相談支援を通じて情報を得ている。実際に関わりを持って児童の情報を得ていき、連携した支援が必要。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			現在卒業生がいない事から行ってないが、支援の情報提供を行う上で整理しておき、卒業に向けて次のステージにスムーズに移行できるようにしておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			現在は行ってないが今後の連携と技術向上の為に確実に必要となるので、関係を作っておく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1		現在は行ってないが、児童の関わりの上の為に今後必要な機会を作る。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1		協議会への参加と、内容によって職員の積極的な参加を行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時に伝えている。	保護者面談の機会を作り、しっかりと話し合っって児童の幸せに繋がるようにする。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4		情報交換と解決のための手段等一緒に考えていながら出来るサポートを行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時の説明、アフターをしっかりと行っっていき、保護者様への不安が無いようにサポートしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		面談や送迎時など活用して情報を集めている。	相談時には一緒に解決していけるよう他機関とも連携していきながら解決に繋がる形を作っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		現在はコロナ渦により行ってないが、春、夏にいちご狩り、夏祭りを行って交流の機会を作っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		ご意見箱を事業所玄関に設置している。	保護者様からのご要望を言いやすい形を作っっていけるよう信頼関係の構築を行っっていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	年に1度広報の発行を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			日頃の関わりの中で伝わりやすい表現、分かりやすい表現を用いて伝えていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1		近隣の老人施設との関わり、自治会との関わりの中で交流の場面がある。また、ハロウィンイベントで近隣の事業所からのサプライズあり。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4		緊急時の対応等保護者様と共有していきながら、対応に備えておく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	避難訓練、風水害、防犯訓練の実施。	安全を守る為、訓練を欠かさずに行っていく事、情報共有を大切にしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	虐待研修の開催とセルフチェックリストを活用。	虐待研修を定期的に行う事で日頃の支援の様子を振り返る場面にも繋げて考えていける機会にしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		現在身体拘束が必要な児童がいない事から現在は行っていないが、今後やむをえず必要になった場合は保護者の意向と理解を得た上でプランニングしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	事前情報で情報共有を行っている。	確認をしていながらアレルギー対象の食物を確認して、提供できる形を工夫していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		事業所内で共有していきながら解決策や事前の対応策を行っている。